

2017年2月27日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

＜発表＞

・ 映画「ひるね姫～知らないワタシの物語～」公開

3月18日から公開。「攻殻機動隊S.A.C.」を監督された神山健治監督のオリジナル作品で、非常にいい映画になっている。ぜひ劇場に足を運んでいただきたい。

・「2017年巨人戦主催ゲーム 野球中継について」

2017年シーズン巨人主催試合の放送は、地上波で19試合、BS日テレでトップ&リレーナイターを含む60試合、CSでは日テレG+で71試合全てを予定している。インターネットでは全71試合をジャイアンツLIVEストリームと、Huluでも配信する。Huluでは今年5月中旬以降、スマートフォンでも見られるようになる。ぜひジャイアンツに頑張っていただきたい。

・ 東日本大震災関連の報道番組の放送予定

東日本大震災から6年経つ。報道番組では「NNN news every.」の特別版を3月11日にお送りしするほか、3月に入ると「news every.」「NEWS ZERO」「真相報道バンキシャ！」「NNNドキュメント」等各番組で震災関連企画の放送を予定している。

1. 視聴率動向と編成戦略

・ 視聴率データ

先週は週間視聴率三冠王を獲得し、34週連続ということで、民放の連続記録を26年ぶりに塗り替えた。また、年度では現段階で45回獲得しており、これも歴代1位のタイ記録である。

また月間三冠王も39カ月連続で、この1月2月も順調に視聴率を獲得できていると評価している。ただライバル社も非常に努力されており、これまでの三冠王の座にあぐらをかくことなく謙虚な気持ちで、視聴者に支持される良質な番組をこれからも作り続けていきたい。

・ 4月改編の狙い

4月の改編では土曜ドラマの放送を1時間遅くしたり、好調なバラエティ一番組の曜日を変えるなど、大きく放送枠を変更する。この改編は、視聴者の流れをそれぞれの曜日で良くするということを念頭に検討した結果だ。土曜日の枠の交換については、バラエティーが3番組並ぶ。19時から「天才！志村どうぶつ園」、20時「世界一受けたい授業」、21時「嵐にしやがれ」というラインナップだ。特にドラマの放送時間を1時間ずらすことはかなり勇気が要ることであったが、22時からの土曜ドラマは今のターゲットだけでなく、さらに少し上にも広げて、大人にも喜んでいただけるようなエンターテインメントを目指したい。

また、改編時期に限らず、常に意識していることは、3カ月から半年先を見据えて、この時にこうありたいというそれぞれの番組の姿を思い浮かべて、常に新しいものにチャレンジをすることだ。長寿番組がさらに長寿であるためには、番組自体が右肩上がりでないとならない。今ある番組は危機を乗り越え、さらに良くなるという努力をした結果だ。例えば「世界の果てまでイッテQ！」は、2007年の2月4日の放送開始から10周年を迎えたが、この2月の月間視聴率が21.7%で、過去最高だった。こういった番組を目指せば、間違いなく長寿番組が増えていくと思う。

2. 営業状況

・放送収入

12月までの第3四半期は既に発表されたとおりだが、放送収入はその後もほぼ順調に推移している。

・放送外収入

ヴェルサイユ宮殿監修の「マリー・アントワネット展」が無事に終了した。125日間の長丁場だったが、42万人の方に来ていただき、成功裏に終わった。続いて、同じく森アーツセンターギャラリーで3月18日から「大エルミタージュ美術館展」を開催する。こちらにも力を入れていく。

映画では現在2本が公開中。昨年12月公開の日本テレビ幹事作品「海賊とよばれた男」は、現在187万6,000人を動員し、興収は23億5,200万円を達成している。また、2月18日から公開の「一週間フレンズ」はまだ9日間の興行だが、32万2,000人、興収が3億9,100万円を達成している。

3. その他

・BPOの選挙報道に関する意見に関して

先日、BPO 放送倫理検証委員会から選挙報道の在り方について意見書が出た。これは、普段から私たちがそうあるべきだと考えていたことを、論理立てきちんとした形で示してくれているという印象で、全体として違和感なく受け止めている。一部に、もう少し積極的に番組をつくるようにという趣旨の意見もあったが、それは激励として受け止め、しっかりやっていくということに尽きると思う。私たちが萎縮しているということは全くないので、BPO の意見書をしっかりと踏まえて、これまで以上に有権者に対して、選択の判断材料をきちんと届けるという使命を頭に置いて選挙報道の充実に力を入れたい。

・配信事業の今後に関して

Hulu の会員が 150 万人を超えた。200 万人は当面の目標であるが、ビジネスなのでより多くの会員を獲得したいと考えている。そのためにはもっとコンテンツを充実させて、より多くの方々に Hulu を楽しんでいただきたいと考えている。先日「銭形警部」というコンテンツを WOWOW、Hulu、日本テレビの 3 社の枠組みで展開したことに関しては、それぞれのところできちんとした結果が出せたと感じている。こうした取り組みはこれからも続けていきたい。

・コンテンツの作成に関して

HUT の低下について、地上波以外の他メディアとの戦いのように言われているが、テレビ離れはそれ以外にも様々な要因があると思う。しかしその一方で、いいコンテンツを放送することができれば、視聴者は支持してくれると考えている。テレビ局の当事者としては、テレビ離れの原因が自分たちと関係のないところにあるという考え方を持ちたくない。むしろ良い番組を作り続ければ、おのずと視聴者はテレビを見てくれると考えている。「箱根駅伝」や「24 時間テレビ」、「イッテ Q！」のような、良質な番組をたくさん作り続け、コンテンツに力を入れていくことが一番重要なことだと思っている。

ネット配信については、伝送路が旧来より幅広くなっているという新しいビジネス環境に過ぎず、コンテンツづくりもビジネスとしても、そういった環境の変化に適応していくよう、切り分けて考える必要があると思う。地上波放送も衛星放送も配信も、そのユーザーや視聴者に支持される、それぞれに適した番組をつくり続けることが一番大事なことだ。

【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員
中山良夫 取締役 執行役員 事業局長
福田博之 執行役員 編成局長

(了)